

自立への第一歩が始まった

3月の定例会に久し振りに参加し、子供と親が自分のリカバリ一体験を短いストーリーにして発表するDVDを鑑賞した。リカバリ一を遂げ、今や立派な社会人となつて活躍する発表者の姿が私は羨ましく見えた。自分の息子は、先月初めてグループホームに入所し、自立への第一歩を踏み出したばかりである、あのような日が来るだろうか。ついそんな思いにふけつた。

息子は高校1年、16歳の時に発病し、担当医から統合失調症の名を告げられた。以来30年以上、幻聴・妄想に責められ、苦しめられ、社会経験を一度も体験出来ずに入退院を繰り返してきた。この時期の苦しいストーリーはとても短時間では語れない。最後に入院した「M病院」での10年間は比較的問題がなく、親は平穀な生活をさせてもらい、心の片隅に感謝の気持ちすらあつた。しかし、そんな時に「M病院」の相談員と開業して間もない

「イマココ」のOさんから、そろそろ社会復帰に向けて退院を考えてはとの打診があつた。

「M病院」のすぐ近くにある生活訓練施設

「Y施設」を勧められたが、過去の失敗が頭をよぎり、あまり迷惑を掛けでは申し訳ない

と入所を躊躇した。ところが担当職員から

「ご両親はもう十分苦労されました。これか

らは私たちに任せてくれださい」と言葉を返され、これには心の底から嬉しく思った。

はからずも、「Y施設」での生活訓練が始まつたが、2,3回入退院の繰り返しはあつたものなの、職員皆さんの方添えで無事2年間の訓練を終え、退所の時期が近づいた。同時に退所後の生活をどうするか、いよいよ真剣に考えざるを得ない問題に直面した。親は高齢を理由に、退所後は自宅に戻らず、親の助けに頼らず、自分の力で生きるよう機会あるごとに言い含めてきた。その気持ちが通じていたのか、「Y施設」の意向調査では、グループホームを希望していたようだ。しかし、

果たして希望に沿うグループホームがあるのか、今度はそれが心配になつた。ところが、昨年12月、突然「Y施設」の担当職員から「息子さんの希望に一番近いグループホームが見つかりました。」との連絡があつた。令和3年にオーブンした「S事業所」の運営するグループホームで、事業内容の説明を受けた。しかし、今まで聞いたことのない名称で判断が付きかねたが、年末の12月27日に親の現地見学を予定してもらえた。周辺の環境やサービス内容、そして息子の希望する図書館が近くにある等を勘案し、2月1日入居を目指にお世話になることを決断した。入居までの1か月は、行政との折衝や生活用品の準備購入など、「Y施設」の担当職員は大忙しのはずであつたが、親は何も手伝うことがなかつた。契約当日には蒲団や家具など的生活用品が見事に部屋に整つていた。手際良さには驚きと感謝の気持ちでいっぱいだった。

かくして、息子の人生初のグループホーム生活が始まった。嬉しいことに違いはないが、しかし自立への第一歩を踏み出したに過ぎない。今後いろんな困難に必ず出会うであろうが、(今年のエトの如く) 純余曲折・蛇行しながらもリカバリーを目指して進んでほしいと思う。

そして、親にとつても急な展開は驚きであるたが、振り返つて見ると、どの局面にも家族会との大きな繋がりがありがった。私も家族会に入会して20年、いろんな方に励まされ勉強もしてきたが、今回の大DVD鑑賞は家族会のありがたさを改めて思い起こし、刺激を受けた勉強会であった。(K・M)